





審査結果報告書

平成 30 年 2 月 9 日

主 査 氏 名	宮 地 鑑	
副 査 氏 名	高 橋 倫 子	
副 査 氏 名	田 中 修 明	
副 査 氏 名	石 井 正 浩	

1. 申請者氏名 : DM14017 中村 洋範

2. 論文テーマ :

慢性心不全患者における予後規定因子の検討

3. 論文審査結果 :

本学位論文は慢性心不全症例における予後規定因子に関して検討を行った研究である。研究 I では、ICD 適応のある低左心機能症例において、基礎疾患や腎機能等に関わらず、安定期のトロポニンが心血管死亡と強く関連していることを明らかにした。研究 II では、非弁膜症性長期持続性心房細動症例において、心房細動周期長 (Fibrillation cycle length: FCL) が心血管イベント、脳血管イベントの予後因子であることを明らかにした。ROC 解析から FCL が 160ms をカットオフ値とすると、 $AUC=0.84$ となり、鋭敏な臨床指標であることが示された。また、FCL は体表面積、QRS 幅、左房容積、右房径など複合的な予後因子を反映した臨床指標でもあることが示された。本研究は、単施設の後向き研究であり、心血管・脳血管イベント数も少ないことから、統計的学的な解釈は限定的である。さらに大きな研究集団との前向き研究が期待されるところである。しかしながら、トロポニン及び FCL は比較的簡便に計測できる臨床データであることから、今後の慢性心不全患者の病態把握やオーダーメイド治療を構築してゆく上で、重要な役割を果たすものと考えられる。

以上、本研究結果は臨床上も極めて有用な情報であり、学位論文としてふさわしいと考える。また、発表も適切で質疑応答も適切であった。